

〔様式2〕令和2年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名
4	川崎市立橋高等学校 全日制
校長名	吉田 宏

- (1)書き方については、平成19年度「学校評価報告書」P17・18を参照ください。
 (2)評価項目設定については、各学校の実情に応じて捨捨選択したり、新たな項目を各学校独自の言葉で作成したりして記入することもできます。
 (3)学校関係者評価を実施した学校は、「学校関係者の評価」に記入してください。
 (4)「今年度のまとめ・次年度へ向けての取組」に、今年度の学校運営のまとめと次年度への具体的な取組を記入してください。また、取組や課題に関連して、教育委員会の施策や事業に対するご意見、あるいはご要望等がございましたら記入してください。

学校教育目標		学校経営の目標	今年度の重点目標
真理と正義とを愛し互いに敬愛の誠を尽くし、勤労と責任を重んじ、自主的精神に満ちた心身共に健康な平和国家社会の形成者の育成 1 知性と品性を高め豊かな情操の育成に努める 2 協同友愛 3 自治の精神の確立 4 勤労愛好の習慣の体得		1 課題解決力を育てる教科指導 2 進路を見すえた特別活動等の指導 3 豊かな心で社会貢献できる人材の育成 4 魅力ある学校づくり	・基礎・基本の定着に基づく応用力・課題解決力及び自己学習力の育成 ・個々の進路を考えた進路指導・生徒指導・総合的な探究の時間・特別活動指導の充実及び生徒の主体性の育成 ・人権尊重教育・道徳教育・共生教育等の推進と共に、ESDのさらなる取組により豊かな心と社会貢献できる人材の育成 ・開かれた、信頼される学校づくりと活力あふれる教職員組織の構築
評価項目	具体的な取組	実現状況及び課題	具体的な改善策
1	自己学習力を強化を目指し、日常生活で家庭学習を身につけさせるために課題を出したり、学習環境を整えたりして、自学自習の習慣を身につけさせるように努力する。さらに、自ら問題解決力を身に付けられるよう、また個々の思考を表現できるよう授業に工夫を凝らす。そのため、言語活動やアクティブラーニング、ESDによる学習活動等を積極的に授業に取り入れる。更にユネスコスクール参加の取り組みも目指す。	学校評価アンケートの結果から、個々の生徒に対する理解力に応じた教科指導について、教師側と、生徒側の考えとに大きな差が見られる。また、家庭学習が不十分であると考えられる生徒が多い。早朝や昼休み・放課後のなどの補習や定期考査前に自習を進められる環境を整えることが急務であると思われる。また、新学習指導要領や大学共通テストへ準備の研鑽をさらに深めると同時に、基礎・基本の定着に基づく応用力や問題解決力、自己学習力の育成に努めていく必要があると思われる。	新学習指導要領が示され、高大接続計画に向けた新しいカリキュラム編成の検討が急務になっており、新カリキュラム推進委員会を立ち上げ、新カリキュラム、それに伴う時間割・時程変更について検討中である。また家庭学習の不足を補うため、宿題や補習課題を課し、自己学習の習慣化をサポートしていく必要がある。その為各学年とも、朝学習(自習)に力を入れている。これからは、学習委員会などを有効に使い、全校で共通して取り組む体制を整えたい。またユネスコスクール参加により本校の特色を更に打ち出す必要がある。
2	3年間を見通した進路計画に立脚し、各学年に応じた段階的な進路指導を実践している。また、選択制カリキュラムに対応したキャリア教育や、外部講師による講演、大学見学などを実施するとともに、保護者へ最新の情報提供にも努めた上で、生徒ひとりひとりの進路希望実現のサポートを行っている。	コロナの影響で、年間計画の大幅な変更を余儀なくされた。学年で集まらない、講師を呼べない、大学を訪問できないなど様々な制約の中、リモートによる展開など工夫して、学年や各科の生徒の状況に合わせた進路指導や情報提供を行い、生徒一人ひとりの進路意識を高め、進路相談など細やかに行うことができた。また、増加傾向にある推薦の希望者や新たな大学入学共通テストなど、生徒の進路実現のために、最新の情報を集め対策を立てることが今後の課題である。	思考力、キャリア・プランニング能力の向上に向けて、より多くの体験的な学習や外部講師の活用を工夫していく。生徒の職業意識や人権観を涵養するために一層学級担任と家庭との連携協力を目指す。進路指導部は進路指導の充実を図り、各学年・各部署に最新の情報を提供し共有することを今後も継続していきたい。
3	「安全で安心して学べる環境づくり」を最優先に規則の遵守と主体的な活動を図る取り組みで、生活面や身だしなみなど基本的な生活習慣の習得を図り、指導を行う。また、互いを認め合い、尊重しあいながら学校生活が送れよう指導していく。教育相談面での取り組みを学校カウンセラーや外部専門機関との連携をより一層充実させ、一人ひとりに対してきめ細やかな対応ができるようにする。	学校生活を通して主体的に行動できる生徒は多くないように感じる。今後様々な投げかけを生徒にしていき、自ら考え、行動できるように促していきたい。また、いじめの問題や生徒間のトラブル、心の悩みなどに対して、適宜アンケート調査を行い、生徒の行動を常に注視していくとともに、担任の先生、教科担当の先生や養護教諭と連携を取り、生徒たちの様子や声をいち早く察知できる体制をとっていきたい。	教員間の共通理解を図り、連携をより深めることが重要である。教育相談やアンケート調査、面談など日常生活の中で様々な教員が関わりながら解決できるよう、よりきめ細かい環境づくりが大切であると考えられる。また、生徒が主体的に活動できるように、部活動や学校行事などに自ら積極的に参加できる指導を継続していくことが重要であると考えられる。
4	橋花祭(体育祭・歌合戦)を中心とする各生徒会行事(対面式・部活動紹介・生徒総会・三送会)の企画・運営及び、日常的な組織運営(代議員会・各種委員会・部活動・壮行会等)を、分掌・学年と連携し、生徒が主体的に取り組めるよう支援していく。また、保護者や地域等とも連携し、環境整備と指導を行う。特に今年度は、新型コロナウイルスに関する感染症拡大防止対策を行うことで各行事が実施出来るように努めた。	今年度の橋花祭テーマは「橋跡(きせき)」で、令和という新しい時代の始まりに様々なことに挑戦しようという意味が込められていて、昨年度以上の内容となるよう工夫された内容であった。今年度の委員会にも、委員会の中心となる企画部を設置し、昨年度の課題を解決するための改善策を打ち出すとともに、今年ならではの新しい企画を立てていた。各行事には、実行委員だけでなく、多くの生徒が主体的に取り組んだ。各実行委員会が主体的に感染症拡大防止対策を呼び掛ける姿があり、行事を通じて生徒の感染症対策の意識も高まった。課題としては、今後もコロナ禍で対応が求められると思う。今年は文化祭を行うことが出来なかったため、来年度以降はさらに工夫をして取り組んでいきたいと思う。	今年度は文化祭を実施することが出来なかった。年度当初、臨時休校が続き、授業数の確保の関係もあり、文化祭の中止を余儀なくされた。また例年の文化祭は食品販売が中心であり、コロナ禍の中で実施することに困難さが伴った。来年度の文化祭は、どういった形で実施することが出来るか、早めから実行委員会を中心に話し合いを重ねて工夫していきたいと考えている。学校行事の歌合戦が7月中旬に本校の体育館で行われるが、暑い時期であるので、冷風機をレンタルするなど、生徒の健康管理に努めたい。生徒1人ひとりの暑さ対策や、体育館の環境整備、タイムスケジュールの工夫等を行って、非常に白熱する行事を、生徒の健康管理に十分配慮しながら、今後も行っていきたいと考えている。
5	各部ともに、基本的な技術の定着を図ることはもちろん、肉体的にも精神的にも健康や安全に配慮する。そして、それぞれの目標に合わせた活動ができるように練習計画を立てて行う。指導方針において、助言を丁寧におこない生徒に寄り添う指導を目指す。また、基本的な生活習慣を定着させ、さらに挨拶や礼儀、活動場所の清掃などの指導を丁寧に行い、部活動の成果を日常生活においてもその行動や言動に反映されるような指導をする。さらに今年度においては、感染症対策に十分に配慮して活動する。	今年度の部活動指導方針として「助言を丁寧におこない生徒に寄り添う指導」を実践し、運動部、文化部ともに部活動が活発に行われ、各大会で感染症の影響で中止となる中、複数の部活動で全国大会への出場、関東大会にはさらに多くの部活動が進出した。各部、今年度は特に限られた時間の中で、工夫して技術的に向上し、日々の努力が実績となって表れる部が多い。また、基本的な生活習慣や挨拶、礼儀、活動場所の清掃などが、学校生活に留まらず、毎日の生活の中でも発揮できている。また、学習面では、部活動とのバランスがうまく取れず、ストレスとなる生徒も存在するため、時間の使い方の工夫など継続して支援していくことが大切である。	指導において助言を丁寧におこない寄り添う指導によって充実して部活動での活動となった。学校生活における学習・部活動・行事のバランスを上手に取り、前向きで充実した毎日が過ごせるよう、指導・支援を丁寧に行っていく。また、部活動の時間が有意義で成長につながるようにするため、この社会状況の中で今まで以上に地域や保護者の方々のご理解や連携を密にして、協力していくことが必要と考えられる。毎日の活動の中で指導・支援の仕方を考え、練習計画や練習内容を工夫することがさらに必要であると考えられる。
6	本校の健康安全面の課題を踏まえ、学校保健安全計画を立案し現状の改善、向上を図る。全体に「薬物乱用防止教育」やコロナに対する予防対策(手洗いの励行、消毒液の設置、マスクの着用の励行、昼食時の注意喚起)などを実施し、高校生として自らが考え健康で安全な生活を送れる力を体得できるよう努める。また教職員を対象に、「心肺蘇生法」「食物アレルギー対応研修」を実施し、職員の間で共通理解を図るとともに緊急時の校内体制を整えることで生徒が安心して学校生活を送ることができるようになる。	保健活動やHRなどの指導により、コロナや生徒の健康安全に対する意識を高めることが出来た。職員間では生徒の個々の健康課題の周知と対策について共通理解を図り、充実した連携が出来るような研修を実施できた。一方、けが、疾病への対策への取り組みはしてきたものの生徒のメンタルヘルスに関しては不十分である。今後も多様化・複雑化する健康課題を抱える生徒が増えつつあるため、より充実した支援のできる校内体制が必要である。	生徒の精神面、健康面で支援が養護教諭、スクールカウンセラー、担任に留まっていることも否めないため、分掌・学校全体の組織として対応していく体制を充実させることが必要である。また専門的な指導が必要であれば外部機関と連携し、生徒へよりよい支援ができるようにしていきたい。今後も職員研修の充実、生徒のニーズに合わせた講演会などの企画実施を図り、生徒が安全、安心に学校生活が送れるように取り組んでいきたい。
7	国際理解教育を通して、世界が抱える諸問題について生徒自らが問題意識を持ってアプローチできるように指導していく。将来的に世界に貢献できる人材となれるように様々な機会を提供する。国際協力機関(JICA・WFP・UNICEFなど)への訪問、高大連携による途上国理解プログラム、国際的な舞台で活躍している講師を招いての国際理解講演会、多文化共生を理解するためのワークショップ等を実施していく。また、今年度は国連の目標であるSDGsについて学び、発展させて自分に身近なところから考え、行動、発信していくことを促す。多文化共生社会について学び、国際社会の一員としての日本人という意識を培っていく。また、世界の問題である核廃絶の動きに目を向け、今後の世界の在り方について考えさせる。	今年度は緊急事態宣言による休校から始まり、外部との交流が難しい年となった。開発教育における体験型ワークショップや多文化共生プログラムも大半が中止となったが、生徒たちは世界が抱える諸問題に目を向け、この状況下で最大限取り組むことができたようだ。引き続き国際理解教育の一つのキーワードをSDGs(持続可能な開発目標)について学び、生徒自らが課題を設定し、その課題を解決するための実践方法を考え、その学習の成果を授業(国際理解・課題研究)や総合探求の時間にプレゼンテーションという形で発表してきた。高校生としてはかなり高い水準での学習活動ができていた。国際理解講演会では、核廃絶運動や議員ウォッチの代表、グローバル教育推進プロジェクトであるGiFTより講師を招いて、生徒たちの視野が広がるお話をうかがえた。	今年度は非常事態の中、できる限り国際理解教育において様々な活動を実施した。生徒たちは自主的に課題を見つけ、グループやクラスなど共同で問題に取り組む姿勢も身につけてきた。また、プレゼンテーションを通して自らの考えを発信する力も鍛えられている。今後もこの主体的・対話的で深い学びを継続していく必要がある。今後も制限が続き、海外との交流が難しいようであれば、行事の在り方の工夫をしていかなければならない。語学研修、普段の専門学科の授業においても工夫が必要になってくるであろう。
8	高大連携事業の一環として、メディカルチェックを国際武道大学の協力の下、1年生・2年生で実施する。また、スポーツ総合演習のスポーツ行事の企画運営の一環として、校内新体力テストに取り組み。(小学校3校と「新体力テストマスター」を企画・運営・サポートの形で参加する。体育祭においては、実技発表に玉川中学校2年生を招き参観をする機会を設ける。さらに毎年カブリーナで行なわれる「手をつなぐフェスティバル」に2年生スポーツ科が参加し、障害者、ボランティア、地域の方々とのスポーツ交流を行う。)→コロナ感染防止のため中止	様々な交流の機会が多く設定されており、どの交流に対しても生徒たちは積極的に取り組んでいる。その中で、スポーツリーダーを目指した中で、企画力の向上・運営方法の学習、精神面での成長など多くのことを身につけることができたと思われる。課題としては、多くの時間を要するこれらの企画・実施の中で、「自分の時間の使い方」「実践力」「進化・発展させる応用力」をさらに身につけ、発展させることが課題となる。	現在の状況では、交流の場を増やしていくことは、難しいと思われる。これらの活動の目的と専門学科の科目との位置付けを明確にし、実施内容の検討や、体系化をしっかり和組み立て、さらなる充実を図ってきたい。また、指導者側の授業の内容の精選、生徒自らの時間の確保、企画段階での工夫などに積極的に取り組んでいきたい。
9	各校務分掌や委員会、教科からの要望や問題提起に対して、運営委員会内で検討を進め、当該部署に解決策を諮問し、また新委員会を設立して個々の事案への対応を行っている。特に今回の「コロナ」対策については定期的開催される職員会議において、全職員で情報を共有し、協議して諸問題の解決を図っている。生徒指導等に関わる内容については、臨機応変に臨時職員会議を招集し、生徒の学校生活をサポートできる体制を整えている。	次期学習指導要領に基づく新カリキュラムに関しては、教育課程検討委員会からの要望を受けて、教育課程編成方針策定委員会にて、カリキュラムの枠組を取りまとめることができた。現在はそれを受けてカリキュラムの中身や実質的な運用を関係部署に促している。担任・分掌調整については、現在行っている試行的な調整方法で一定の改善がみられた。しかし、十分ではない部分も見受けられるので、さらに議論を深めていく必要がある。	「コロナ禍」の影響もあり、個々の分掌や委員会では対応できない懸案が増えてきている。現在は分掌横断的な新委員会を設立して対応を行っているが、将来的には分掌の再編、人数調整等も必要となってくるであろう。また、学校の将来像を見据えた上で、学校全体を把握し調整できるような、統合的な組織も必要ではないかと考えている。
10	今回、「コロナ禍」においても学校行事・生徒会行事・PTA活動への参加者が高止まりしている状況を受けて、校内担当者間での連携を密にし、学校教育活動を円滑に執り行っていく必要がある。今後地域・保護者・学校の3者が一体となり、充実した学校生活の構築に努める。地域からの意見や要望を集約し、PTA活動もより効率化していく。「コロナ禍」を踏まえて授業や学校行事等を常時公開し、生徒の活動をより多くの方に知ってもらう。また、地域や保護者との情報交換・意見交流の場を多く設定し、学校教育活動への理解を深めていく。	地域・保護者の理解と協力はあるものの、今年度は「コロナ禍」で学校教育活動を円滑に行うことができなかった。参加者増加の傾向にある行事に関しては、PTAの意見を参考にし、よりスムーズな運営をすることを旨とした。また、PTA活動の一環である懇談会については、保護者と各学年との直接連絡を基本として設定したが、学年やクラスの間で若干意思疎通がうまくいかない場面も見受けられた。また、地域や保護者からの様々な意見や要望は教員間で共有し、学校内での議論を促進した。特に保護者からの要望が多かった防犯カメラの設置へ実現でき、生徒の安全な学校生活づくりに繋ぐことができた。	相変わらず学校からの情報が家庭に届かないというケースを数多く耳にする。生徒への指導を徹底し、家庭への啓発活動も引き続き実施していく必要がある。情報発信の手段も今後検討していく必要があるかもしれない。今回からうって実施できた学級懇談会については、これからは保護者と学年・担任との直接情報交換を基本とし、より有意義な会になるよう努めていきたい。
学校関係者の評価		今年度のまとめ・次年度へ向けての取組	
・家庭学習が大切であった1年間だからこそ、橋高校長年の課題である自己学習力強化が特に大切であると感じられる。具体的なデータに基づいた資料による個々に対する指導が必要。 ・2学年の保護者、生徒に対する進路情報の情報発信が重要に思われる。スマホやパソコンなどを利用して具体的な検討してほしい。 ・世界中が厳しい状況である今だからこそ、SDGsを考える機会を前向きにとらえ、プログラムの再検討をする必要がある。 ・校内新型コロナウイルス対策委員会を設置し、校内でできる対応してきたのは良かった。 ・3年次の選択授業に対する不満を解消するためにも、1年次の生徒・保護者を変えた進路指導の重要性を考え、今まで以上に腰を据えた取り組みが必要になると感じる。 ・オンライン授業の充実などで授業進度に影響が出ないようにしたい。 ・オンライン授業の充実などで授業進度に影響が出ないようにしたい。 ・感染と教員の「授業の理解度」に対する認識の違いが気になる。 ・感染症対策は理解できました。引き続きクラスター防止をお願いします。 ・高1では進路がなかなか定まらないので、文理選択を2年次に決めるのどうか。		今年度の自己評価の方法も昨年度と同様にした。具体的にはここ数年間の変容を見るためにも、まず生徒・保護者の評価を先に行い、その結果を全教員で確認した上で教員の自己評価を行うことが必要と判断した。自己評価のやり方も昨年と同様に行った。 今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大がおり緊急事態宣言が発出され、学校が2か月休校になったことにより新たな課題が生まれた。1つ目はオンラインによる学習保障である。本校では生徒にタブレットを持たせているわけではないので、緊急事態宣言が出た直後は、対応に苦慮した。一度は全生徒に課題を郵送して対応したが、宣言が2か月に及んだため授業進度に大きく影響した。学校内ではWiFiを整備し、タブレットを用意するなど対応し、来年度はその利用を進めていく必要がある。2つ目は家庭学習の取り組みである。年度当初の休校が影響したの各、各学年とも生徒自身だけではなく、保護者、教員ともに家庭学習の定着があまり良くないと感じている。来年度のスタートは、例年と違った学習への取り組み指導が必要である。 教員の自己評価においては、学習面と進路(選択科目)の項目では大きな変化はなかった。現状での問題点を認識し、新学習指導要領編成に向けて、具体的に取り組んでおり、選択科目、授業時間数などの検討を行っている。学習面では、アクティブラーニングやコンピュータを導入することによって、授業に対する関心・意欲を高めていかなければならない。 生徒自身は充実した学校生活を送っているように思える。学校行事や部活動に対する満足度は、例年9割を超えている。また規律正しく学校生活を送り、安心した学校生活を送っている。しかし、3年次に「進路にあった選択科目を用意している」項目で5割近くの生徒が否定をしている。高校生活のすべての面で満足した結果を出させるためにも、1年次より計画的な進路指導、学習指導を行い、こころに応じた進路実現をサポートしていく必要がある。	